

ミナミトミヨ教材に

柏原ロータリー 8年の研究まとめる

小田繁雄教育長（中央）に学習教材を贈る荻野富雄柏原ロータリークラブ会長（右から2人目）



「ミナミトミヨ物語」

かつて生息していた淡水魚、ミナミトミヨを通じての生息地の地図など、子どもたちに自然保護や水環境の大切さを理解してもらおうと、柏原ロータリークラブ（荻野富雄会長）が学習教材「ミナミトミヨ物語」（6巻）を作成した。丹波市内の小学校に配布する。イラストでミナミトミヨの生態や巣の様子、かつての生息地の地図などを盛り込んだ。同クラブのミナミトミヨわくわく委員会（保尾治三委員長、14人）の8年がかりの調査研究成果を子どもに分かりやすい内容にまとめた。

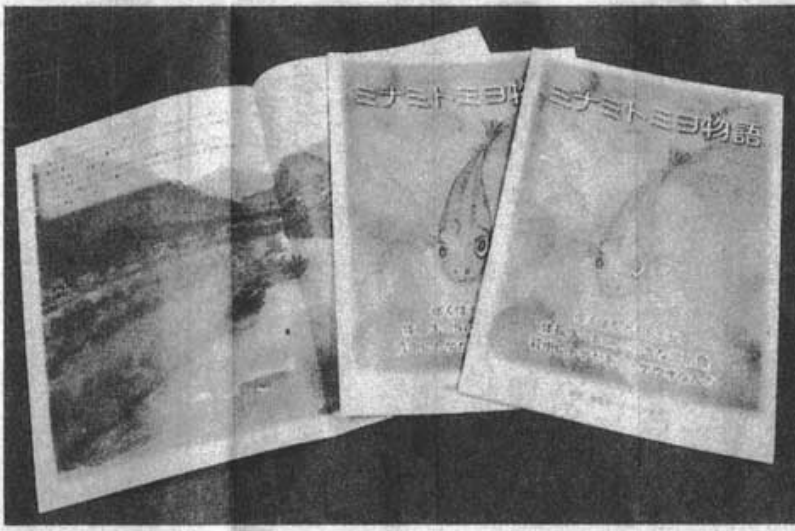
同クラブは、森誠一岐阜経済大学教授やさかな

クン、市内の生物学の専門家らのアドバイスを受けながら、各地に生息するトゲウオ科の淡水魚の生息状況を視察したり、市内各地の淡水魚を調べ、ミナミトミヨの再発見に期待をかけたが、昭和初期までの生息を確認したもの、再発見には至らなかった。

「ミナミトミヨは、トゲウオ科トミヨ属に分類される。100年以上前の1914年（大正3）に水上町成松に生息していたのを、地元の中学生により発見された。発見から20年後ぐらいには、姿を見かけることがなくなり、1954年（昭和29）に淡水魚としては初めて国内の絶滅種第一号になった。

22日には、丹波市教育委員会を訪れ、小田繁雄教育長に教材を贈った。荻野会長ら同席したメンバーが、「絶滅したとはいえ、地域の宝。生息していたことを語り継ぎ、どっしたらのきれいな自然を未来に残していけるのかを、ぜひほしい」と話している。

1800部を印刷。市内の小学校に置いて、5、6年生の総合学習に活用される。市内の小学校教諭4人も編集に協力。イラストは手づくり。絵本作家の村上祐喜さんが担当している。



市内の生物学の専門家らのアドバイスを受けながら、各地に生息するトゲウオ科の淡水魚の生息状況を視察したり、市内各地の淡水魚を調べ、ミナミトミヨの再発見に期待をかけたが、昭和初期までの生息を確認したもの、再発見には至らなかった。

「ミナミトミヨは、トゲウオ科トミヨ属に分類される。100年以上前の1914年（大正3）に水上町成松に生息していたのを、地元の中学生により発見された。発見から20年後ぐらいには、姿を見かけることがなくなり、1954年（昭和29）に淡水魚としては初めて国内の絶滅種第一号になった。

22日には、丹波市教育委員会を訪れ、小田繁雄教育長に教材を贈った。荻野会長ら同席したメンバーが、「絶滅したとはいえ、地域の宝。生息していたことを語り継ぎ、どっしたらのきれいな自然を未来に残していけるのかを、ぜひほしい」と話している。



丹波新聞
3/27 23